

2025 年度入試 地域経営学科

学校推薦型選抜

出題意図

DIKW モデルは、データを活用する上で重要な概念である。自身の身近にあるデータと情報、知識と知恵の違いについて深く考え、理解しているか、自分の意見や視点を明確に表現することができるのかについて確認するための問題である。

<解答例>（非公開）

データは、単なる「数字」「記号」であり、統計局などによって収集された事実の集積である。例えば、気温や降水量の観測値、人口統計などがデータの一例で専門的な知識がなければ読み解けない場合もある。

情報は、データを部分的に収集・加工し、意味を持たせたもので、一般の人でも理解できる必要がある。データは単なる数字であるのに対して、情報は次に何をすべきかの検討・判断材料となる。例えば、天気予報は、気象衛星のデータを読み取り、「情報」として降水確率を私たちに伝えている。天気予報のデータは、気象衛星や観測地で観測した事実だが、情報はそのデータを用いて誰でも分かるように晴れの確率や雨の確率に加工したものである。

このように、データは単なる事実の集まりであり、情報はそのデータに意味を持たせたものである。

知識は、ある事柄について知っていることや、その内容を指す。例えば、歴史の出来事や科学の原理など、情報として頭に入っているものである。

一方、知恵は、その知識を基にして適切に活用する能力を指す。つまり、知識を使って問題を解決したり、状況に応じた判断を下したりする力である。

具体的な例を挙げると、明日の天気予報を知っていることは知識であるが、その情報を基にして傘を持っていくかどうかを判断することが知恵である。

知識があっても、それを活かす知恵がなければ役に立たない。逆に知恵を発揮するためには基礎となる知識が必要となる。どちらもバランスよく身につけることが大切である。

（文字数 625 字）

<採点ポイント>（非公開）

- 300 字以上 30 点
- 400 字以上 40 点
- 500 字以上 50 点
- 具体例を示し、4 つの用語を説明している 各 10 点×4=40 点
- データ活用の重要性等について、自分の考えや意見を記述 10 点